

## エンシュウツリフネ

*Impatiens hypophylla* Makino var. *microhypophylla* (Nakai) H.Hara

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 4、補正+1 (シカ食害)、総点 16。分布域の狭い固有変種。静岡県ではほぼ絶滅状態らしく、岐阜県も 1 カ所に小集団があるのみで、ある程度の量が確認できたのは愛知県だけであったが、ニホンジカによる食害で激減した。現在は保護柵の中で辛うじて残存しているだけである。

### 【形態】

1 年生草本。茎は多汁質で分枝し、高さ 30~80cm になる。葉は互生し、短い柄があり、葉身はひし状楕円形、長さ 4~13cm、幅 2~5cm、先端は鋭頭、基部はくさび形~浅い心形、辺縁には鋸歯がある。花期は 7~10 月、花序は葉腋から出て、すぐ下に曲がり、葉の裏にかくれるように下垂する。花は小型で長さ 15~20mm、淡紅紫色である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：2 豊根 (芹沢 91500, 2016-9-11)。西：5 稲武 (芹沢 74868, 1998-8-23) にもあったが、最近では全く見かけない。4 津具にもあったという (小林 2006)。

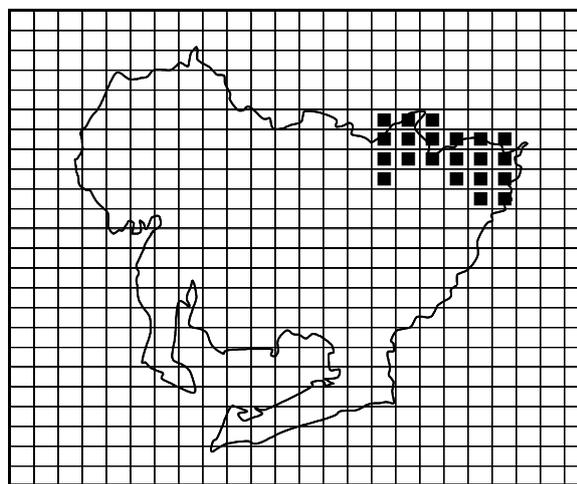
#### 【国内の分布】

本州 (長野県南部、静岡県西部、愛知県東北部、岐阜県西部) に分布する。九州北部にも似たものがある。基準変種 *Impatiens hypophylla* は、本州 (紀伊半島)、四国、九州に分布している。

#### 【世界の分布】

日本固有変種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

山地の沢沿いの林内の、多少開けた場所に生育している。自然度が高い地域の、しかも多少攪乱された場所に限って見られる植物である。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

生育地は少ないが、そこにはかなりの個体数があった。しかし近年、ニホンジカによる食害で激減し、保護柵の外ではほぼ絶滅状態になってしまった。保護柵の中では食害は免れるが、他の草も食害を受けないので、それらに圧迫されて衰退することが懸念される。

### 【保全上の留意点】

何が分布を限定しているのかよくわからず、その意味で特に気をつかわなければならない植物である。

### 【特記事項】

ハガクレツリフネからは、花が小さく、花弁に濃色の斑点が少ない点で区別される。彩色画はレッドデータブックあいち 2001 植物編 図版 4 に掲載されている。県条例に基づく指定希少野生動物植物種になっている。

### 【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p. 59, 165. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

### 【関連文献】

保草本 II p.73, 平草本 II p.236, 平新版 4 p.174, 環境省 p.252, SOS 旧版 p.63, SOS 新版 p.23,25.